

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502777		
法人名	社会医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	札幌市白石区川下574番地61		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは土地柄、地域との関わりが難しいところはありますが、お祭りなどの行事に参加したり、なるべく外出する機会を増やしたりと、地域と良好な関係を保つように常に心掛けております。今年度は地域社会への関わりの一環として、地域で催された消防総合訓練大会の見学へ行き、これまで以上に災害対策を意識するようにもなり、避難訓練なども入念に実施しております。

また、入居者さんの趣味や楽しみを目的・目標にできるようにするため、絵画・書道・手芸品を作品展に出展したりと新たなチャレンジにも試みております。

設備面では入居者さんにとってはもちろんのこと、職員にとっても快適な職場環境を形成するために、新たな設備の導入や入れ替えも行ってまいります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170502777-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは病院を母体とした運営法人が当地に開設して9年が経過しています。広大な敷地内には利用者や家族はもとより、地域のニーズに応じて複数の福祉事業が展開されており、行事や災害時、研修、情報等で交換連携体制が構築されています。玄関には救急救命に対応できるホームであることを掲示するなど、地域における社会的役割が実践されています。運営推進会議で提案のあったエアコンを今年度から設置し、快適な生活になっています。運営者は就業環境の整備や職員の資質向上に努めています。職員は更なる知識や技術の向上を目指しており、切磋琢磨しながら日々邁進している「グループホーム まいホーム川下」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、理念カードを全スタッフがネームプレートに入れ、サービスの提供場面で振り返ることができるようにしており、常に実践していけるよう心掛けている。	ホームの社会的意義と役割を認識した理念を策定しています。日常業務や会議で理念を振り返り、さらに裏面に理念を記載した名札を携帯し、理念の実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園・神社に散歩に行ったり、食事をしたり、車で外出し、買い物・美容室に定期的に行ったりしている。	系列の施設が同敷地内に点在していることから法人全体を地域と捉え、散歩を兼ねて訪れ飲み物を頂くこともあります。公園に遊びに来ている多勢の子供達や、他の施設へ来訪の保育園児による遊戯の見学は利用者の楽しみになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の介護予防講座に参加したり、近くの公園のライラック祭りに行ったり、運営推進会議でグループホームの理解や取り組みを町内の方や地域包括センターの方と積極的に話し合いをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況やグループホームの取り組みなどを話し、ご家族からも意見が聞かれ、サービス向上につなげている。	課題であったメンバーの拡大は他のグループホーム職員の参加を得て、ホームの質向上に向けての情報や意見交換を行っています。暑さや湿気対策としてエアコン設置の提案があり、今年度実現しています。	運営推進会議の開催目的について理解いただき、多方面での参加要請（近隣の住民の方々、民生委員、交番署員等）や参加しやすい日時設定などによる会議の活性化を望みます。避難訓練後に会議を検討していますので、その実現に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	白石区保健福祉部と密に連絡を取り合ったり、札幌市白石区の管理者会議にも毎回参加し、情報交換や協力体制に取り組んでいる。	行政とは実地指導や管理者会議、各種書類提出等の機会を捉え、ホームの課題等について情報や意見等を交わし、質の確保に繋げています。地域包括支援センターと連携して町内会の介護予防講座を開催しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで身体拘束について、勉強会を持ち、日頃のケアの振り返りを行い、無意識に気になる行為となっていないか確認し合い、話し合いを行い、意識して身体拘束をしないケアを心掛けている。	身体拘束防止に向けてマニュアルを整備し、外部研修、その後の伝達研修、法人研修、ミーティング時に新聞記事を取り上げての勉強会等で理解に努めています。センサーマットの使用について検討があり、居室への巡回や見守りを強化することで解決に至っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時などを通し、高齢者虐待について勉強会を持ち、ケアの振り返りなどを話し合い、常に虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を利用されている入居者さんもあり、常に関係者と話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学・体験外泊などを通し、不安・疑問に対して十分な説明を行い、契約時や改正等の際にも、理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには必要な時にはわかりやすく説明し、ご家族の要望などを聞き出すよう努めている。	日々の関わりから利用者の要望を捉えています。家族には、来訪時や電話、手紙、ホーム便りで、利用者の様子や今後起こり得る事態を伝えています。運営推進会議の議事録には、家族から外出等の支援に感謝の言葉があります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、ミーティングなどに限らず、職員の意見に耳を傾けるように心掛けている。年に数回、個人面談を行い職員と向き合う場を設けている。	ホーム長は、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めると共に数回の個人面談を行っています。非常勤職員の契約更新時には法人本部職員による面談もあり、職員の要望を把握しています。職員は行事や献立作成等を交替で担当し、企画や運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行っており、その結果を昇給に反映している。正職員への登用も有り、労働条件も向上している。また、勤務状況としては、残業もほとんどなく、有給休暇も取得しやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を踏まえ、法人内外の研修に参加を促しており、研修後の報告やサービス向上に努めている。また新人に対して研修の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他のグループホームの方を招待し、交流が持てるようにしている。また、積極的にこちらからも他のグループホームの運営推進会議に参加していきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居などを通して、ご家族と本人を交えて話し合いをし、不安なことや要望などを聞き、安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・入居の段階で、できるだけ詳しく説明し、要望・不安なことなどを聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよく把握し、ご家族と相談しながら必要なより良い支援を取り組むように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること・得意なこと・興味を示すものや能力などを見出し、日々の生活の中、発揮できるよう働きかけを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より面会時や電話の取次ぎの時など、日々の生活の様子や変化などをこまめに伝え、情報交換に心掛け、協力を得ながら一緒に支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人などの面会、手紙、電話などを行うことを支援し、以前利用されていた馴染みの床屋さんへ行き、関係を大事にしている。	家族のみならず知人の来訪もあり、電話や手紙のやり取りもあります。通い慣れた理・美容室へは、家族の協力をいただきながら職員も支援しています。ユニット間の交流もあり、利用者同士が馴染みの関係になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の座席の設定や外出・外食・行事・誕生会などを定期的に行い、利用者さん同士、交流を図り、関わり合いを持てるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方への面会を定期的に行い、ホームの写真を持っていったり、誕生日には色紙を持っていき、関係を大切にしている。退居された方やご家族もいつも気軽に立ち寄れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、関わりの中で、本人の思いや望んでいることなどを汲み取り、できるだけ希望に沿うようにご家族の協力を得ながら検討をしている。	利用者との日常の関わりや個人記録、家族や友人からの情報をもとに思いや意向の把握に努めています。意向の把握が困難な場合は幾つかのケアを試みています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より本人の生活の様子をできるだけ詳しく情報収集を行いケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースや習慣を大切にし、その日の体調に合わせて、生活の中で能力を活かせるよう支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでより良く暮らすために必要な課題をご家族の意見も参考にし、チームで話し合い、目標を達成できるよう、具体的にケア内容を工夫し、作成・実施して定期的に見直し、カンファレンスを行っている。	介護計画は利用者や家族の生活に対する意向を傾聴し、医療関係者の意見や担当職員の気付きを参考に会議で検討され立案しています。	計画書には利用者や家族の要望が少ない状態ですので、会話の中から引き出す工夫への取り組みを望みます。計画と記録の連動性や計画書の同意欄の記入が十分ではありませんので、記録整備の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や介護計画に沿ったケアを意識し、介護記録へ記入している。情報の共有を図り、変化のある時は、申し送り時に確認し、次のケアへ活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲の中で、本人・ご家族の希望や要望に対し、柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出・外食・散歩・行きつけの床屋に行くなど、一人ひとりに合わせた機会をつくり、活性化を図り、楽しむようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院との連携を図り、定期的な受診を行い、ご家族へも受診内容の報告をこまめに行っている。	隣接の協力医療機関とは24時間の連絡体制が整備されており、2週間毎に訪問診療が行われ、利用者、家族の安心に繋がっています。専門医への受診は家族の協力を得ながらホームが対応し、受診結果を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より健康管理に心掛け、定期的に受診を行い、状態の変化や気になるときはその都度、専門医に相談し、適切な治療を受けられるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病院関係者より状況説明を聞き、退院後の生活が円滑にできるようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢であるため、重度へ変化していくことは避けられず、入居時より指針を説明し、早い段階でご家族や担当医と相談し、意向を確認するようにしている。	重度化や終末期における対応指針と同意書を整備しています。重篤時には、早い段階から医療関係者や家族と話し合い、方針を共有しています。これまで看取りを経験していますが、医療行為が生じる場合は医療機関での支援としています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、その都度、ミーティングで確認を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、その内1回以上は夜間を想定して行っている。今年度は地域で催された消防総合訓練大会の見学に行った。地域との協力体制は同一敷地内の併設施設と連携体制がとれている。	併設の施設とは廊下が繋がっていますので、合同で年2回、消防署員の立ち会いや防火管理者が消防署に出向き指導を受け、昼夜想定での避難訓練を実施しています。避難場所は相互の施設とし、防災扉を閉めることとしています。災害時備蓄品も用意しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して言葉を掛けるようにし、態度にも注意を払っている。トイレ誘導・入浴時にもプライバシーを意識しながら対応している。	一人ひとりの尊厳を損なわない対応を心掛け、職員間で不適切なケアになっていないかを確認しています。トイレや入浴時には、プライバシーや羞恥心に配慮し、個人記録は事務室に適切に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちや希望を聞き、自己決定できるよう働きかけている。上手く言葉にできない入居者さんでも、表情などで気持ちを汲むように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや習慣を大切にし、共同生活の最低限の決まりごとはあるが、一方的な関わりは避け、柔軟な対応を心掛け、本人の思いや希望に沿う支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時の服装・化粧など、本人のこだわりを大切に、自ら選択しやすいよう、環境を整えておしゃれ、服選びが楽しみになるよう支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんそれぞれの好みのものを献立に取り入れて提供している。食べやすいように調理を工夫したり、盛り付けなども楽しめるよう工夫している。一緒に調理できるものを必ず取り入れたり、誕生日は本人の希望のものを提供している。	利用者の食事形態や好み彩りに配慮した献立を作成し、食欲の増進に繋がる食事を提供しています。利用者は食事の一連の作業で得意分野を發揮しています。行事食作りや菜園で採れたトマト、ジャガイモ等を食材に取り入れた時は会話が弾むようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の摂取量を把握し、状態に合わせた食事の提供を行っている。水分摂取が特に難しい利用者さんについては、チェックシートに水分量の記入を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを個々に応じて見守りをし、不十分である時には介助を行っている。毎日、義歯の洗浄消毒をしており、清潔に保つよう心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、効果的にリハビリパンツパットを使用することで失敗を減らし、仕草や行動から排泄のサインを見逃さず、タイミングをみて声を掛け、誘導を行っている。	排泄チェックは利用者の状態により必要時にとどめています。生活習慣やトイレへのサインを察知して、トイレへ誘導しています。利用者に合わせて下着の着用や衛生用品を使用し、失敗の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、腸の働きを意識した乳酸飲料を提供したり、水分補給、運動（散歩）などを日課にし、便秘予防に心掛けている。個々の排便状況の把握をして、応じた働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴できるよう、本人の生活パターンに合わせて、週2回行っている。本人の気分や体調によっては別の日にしたり、足浴や清拭などで対応している。	利用者の希望や体調に考慮しながら、週2～3回を目途に入浴支援を行っています。職員の支援の下、浴槽での全身浴やシャワー浴、足浴、清拭により保清に努めています。入浴時は職員と利用者のコミュニケーションの場となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠リズムを把握し、生活習慣に合わせた関わりをして、安心して気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容・目的・調整・副作用についての状況を報告している。申し送り時、再確認し合い、慎重に扱っており、一人ひとりに合わせた内服支援をしている。常に状態の観察をこまめに行い、早めに変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、一人ひとりの嗜好・できることを生活の中で取り組んで提供している。また、継続できるように支援をしているし、個々の活性化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望をできるだけ取り入れた外出・外食などを定期的に行い、楽しい時間を持つようにしている。年間を通し、行事を計画してご家族の参加協力を得て、一緒に過ごす時間をもうけるようにしている。	利用者の意向に沿い、菜園作業やホーム周辺を散歩して近所の庭園を觀賞したり、公園や神社の散策、買い物や美容室等で、日常的に外出支援に取り組んでいます。また、工場見学や紅葉觀賞等を企画し、家族の参加も得て寿司やコーヒー、ソフトクリーム等を味わっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事や食材の買い物の時など、お金を自分自身で扱う場面をつくるようにしている。ご家族と外出のときなどは、本人にお金を扱うことを意識し、協力を得ながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、取り次いだり、遠方にいるご家族や電話の扱いが不十分の利用者さんなどは、手紙のやり取りを行い、安心して暮らせるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さん一人ひとりが過ごしやすいよう空調の温度や風が当たらないように等気をつけている。季節ごとに変えている飾り付けは話題となり、興味を持ってくれている。	玄関前やユニット内には、利用者が拾い集めた松ぼっくりなどを活用したリース等が飾られており、利用者との会話の糸口になっています。共用空間は採光や温湿度、清掃に配慮され、テーブル、ソファなどの配置も動線に注意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、お茶を入れたり、思い思いに過ごしていただけるよう、ソファや食卓テーブルの配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活してきた歴史を踏まえ、使い慣れた物やその人らしい雰囲気のある居場所になるよう支援している。	居室には押し入れ仕様のクローゼットが設置されており、衣類や日用品が収納されています。壁面には敬老会で手渡された利用者を称えた賞状や写真、趣味の物が掲示されるなど、利用者と家族が安心できる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の設定、クローゼットの中、座席、トイレ、靴箱など、一人ひとりの状況に沿うように十分な検討をして、配置の工夫などをして、安全に移動、動作が自分自身でできて、目的を達成し、自立した生活を送れるように支援を心掛けている。		